

第2回都市マスタープラン検討部会における意見と対応案等について

第2回都市マスタープラン検討部会における意見と対応案等について

1 開催概要

日 時:令和8年8月25日(火)13:00～14:30
場 所:新宿ファーストウエスト会議室C
案 件:地域別まちづくり方針について
出席者:倉田部会長、遠藤委員、中川委員、松本委員、村木委員(オンライン)

2 第2回部会における主な意見と対応案

意見・質問		対応案・質問への回答
(1)地域別まちづくり方針の見直し内容について		
	①方針の見直し箇所の示し方	
	- 今回の見直しにあたり、大きな方針の見直しがあった箇所が分からない。大きく変わっている地域について詳しく説明してほしい。(遠藤委員) - 各地域の青字部分をすべて確認する必要があるという理解でよい。主な改定点として一覧があるが、どこが見直し部分なのか対応が分かりにくい。(遠藤委員)	- 各地域の将来像やまちづくりの方向性について大きく見直した箇所はない。将来像についても町会・自治会及び地区協議会に意見を伺ったが、見直しを求める意見はほとんどなかったため、10地域すべて現行の将来像を継承することとした。 - 方針は現行の都市マスを継承しつつ、まちづくりの動きに応じ、見直した部分を青字で示しているが、今後、見直し箇所が分かりやすくなるよう資料を工夫する。
	②今後10年間で取り組む内容の明確化	
	他区に比べ改定が遅いにも関わらず先駆性に乏しい。どこが新しいのか、目玉が何なのかが見えない。今後10年間で新宿の都市計画として何をやるのか、何を成し遂げようとしているのかというビジョン・意志を示した方がインパクトがあり、区民にも分かりやすい。(村木委員)	今後10年間で取り組む内容について、いただいた意見を踏まえて事務局で改めて検討する。
	③キーワード(ウェルビーイング・シビックプライド)の反映	
	「ウェルビーイング」は人間の健康だけを指すものではなく幅広く捉えた概念であり、QOLより上位の概念であることを丁寧に説明した方がよい。(倉田部会長) - 愛着・シビックプライドやウェルビーイングを地域レベルの方針やカルテに落とし込めるものがあるか、地域とコミュニケーションを取りながら深める作業を検討してほしい。(遠藤委員)	- ウェルビーイングについては、資料における表現の仕方に留意し、今後の記載に反映していく。 - 都市の骨格の考え方にこれまでいただいたキーワードを踏まえ変更することを検討している。地域別まちづくり方針への反映方法については、今後の作業の進め方を含め検討する。
	④官民連携の視点	
	民間建物内の区民施設など、公民連携により整備してきた区民のためのスペースは新宿区の強みであり、官民連携の視点での現状分析と方針が必要ではないか。(遠藤委員)	官民連携については、部門別まちづくり方針の一部に記載している。地域別で示すのか部門別で示すのかを整理した上で、内容を作り込んでいく。
	⑤防災・気候変動への対応	
	- 地域別危険度は震災を対象としており、気候変動による豪雨に対応したハザードマップが示されていない。気候変動に対する危険度が地域ごとに分かるとよい。(倉田部会長) - 地域別に相対化し、この地域はここに重点を置くという政策的な方向性が見えるとよい。下水の更新等でも優先的に力を入れるべき場所が出てくる。(倉田部会長) - 神田川のような従前からの課題ではなく、アンダーパスの浸水など新たな都市水害の課題への回答が必要である。(村木委員) - この時代に必要な防災のトータルな問題意識を全体構想で定義した上で、それぞれの地域方針へ落とし込むストーリーを分かりやすく構築すべき。(倉田部会長)	- 洪水ハザードマップは、参考資料として配布した基礎調査データに掲載している。 - 地域別まちづくり方針では、例えば、戸塚地域の地域カルテ②において、浸水危険度が高いエリアや神田川流域豪雨対策を課題として記載している。神田川沿いの地域だけでなくアンダーパスの浸水や内水氾濫なども考慮し、新たな都市水害の視点を地域カルテに反映していく。 - 防災に関する全体的な問題意識を整理した上で、各地域の方針への反映が分かるような資料となるよう検討する。
	⑥新宿駅を囲む歩行者ネットワーク	
	新宿駅を囲む歩行者ネットワーク(北側・線路沿い)は従前からあったものか。東西デッキの次の段階として、回遊ネットワークの方向性が見えるとよい。(中川委員)	新宿駅を囲む歩行者ネットワークは従前からの内容である。北側の線路沿いの歩行者ネットワークとしては、サブナードとメトロプロムナードをつなぐ地下通路の計画等がある。

第2回都市マスタープラン検討部会における意見と対応案等について

2 第2回部会における主な意見と対応案(続き)

意見・質問		対応案・質問への回答
(1)地域別まちづくり方針の見直し内容について(続き)		
	⑦神宮外苑・信濃町駅周辺エリアの範囲など	
	- 神宮外苑・信濃町駅周辺エリアの範囲には、国立競技場、神宮球場、秩父宮ラグビー場、周辺の高層建築物を含むのかが分からない。(中川委員) 「イベント時」が何を指すのか。(中川委員)	- まちづくり推進エリアの範囲は、概ねの範囲を示します。なお、神宮外苑・信濃町駅周辺エリアを示している表示については、隣接区を含めるか賑わい交流の心の範囲と合わせて今後検討する。 「イベント」はスポーツイベント開催時の混雑を想定した記載である。
(2)都市マスタープランとまちづくり戦略プランの統合について		
	①まちづくり推進エリアの取扱い	
	まちづくり推進エリアは地域区分をまたがって設定されている。統合後、実際にまちづくりを進める上で支障はないのか。(松本委員)	- 地域別まちづくり方針とエリア戦略を統合し、エリア戦略に記載のあった戦略の方向性や重点的な取組を各地域の「まちづくり推進エリア」として記載している。なお、エリア戦略に記載のあった推進方策については都市マスタープランの実現に向けた推進方策として第4章に記載する方向で検討している。 - 地域をまたがるエリアは、主要な部分が属する地域に記載しているが、まちづくりを進める上で支障はないと考えている。
	②「統合」「一体的」という表現について	
	「統合」という言葉では新たなものができるとの印象を与える。別冊であったものを一つにまとめて示すことで全体像が分かりやすくなる趣旨を前面に出し、「重点的な取組までを示す内容へ更新」等の表現に工夫した方がよい。(中川委員)	表現方法については、いただいた意見をもとに事務局で検討する。「統合」「一体的」という言葉に誤解が生じないように記載していく。
(3)地域カルテの分析について		
	①他地域との比較による分析	
	- 四谷地域の地域カルテにおいて総括では、災害に係るアンケート結果で「良くなった」と感じる人が少ないことを根拠に、災害時の安全確保が課題としているが、同アンケートでは「どちらでもない」が多いことに加え、まちづくりに関わる満足度のアンケートを見ると区内全域より災害への安全性の評価が高い。他地域と比較した分析の観点欠缺しているのではないか。(遠藤委員) - クロス集計により、同じ設問での他地域とのポイント差や10年間の変化の差を確認し、地域カルテの軸となる考え方を整理した方がよい。(遠藤委員)	アンケートデータのクロス集計を充実させ、他地域との比較を意識してデータの分析方法を改めて検討する。
	②資料の組み立ての明示	
	アンケートだけでなく、建物現況・地域別危険度・緑被率等の定量データや、これまでの達成度からも方向性を導いていることが分かるよう、資料の組み立ての流れを明示してほしい。(松本委員)	- 地域カルテ①で定量データ・アンケート結果、②で地域資源・課題、③でまちづくりの取組実績(達成状況)を示す組み立てとしている。地域カルテ①の2枚目・3枚目は10地域共通の項目で整理している。 - 組み立ての流れが伝わるよう、資料の構成を工夫する。
(4)基礎データ・分析の視点の充実について		
	①「量から質」への視点	
	- 住民が期待するものが量から質へ変わってきている。扱う質に対応するデータもあるとよい。例えばウォーカブルなまちの質を測る際などは、歩道が整備されている道路の延長やそのネットワークの状況、自転車レーンの整備状況、街路樹の状況などのデータで示せるとよい。(倉田部会長) - ウェルビーイングを測る指標(15分都市、公園やコミュニティ施設へのアクセス等)も基礎データとしてあると分かりやすい。(倉田部会長)	質に係るデータ等について、歩道・歩行者ネットワーク、自転車レーン、街路樹等のデータなど、今後基礎調査データ資料に追加していく。